

(様式1)

令和元年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 明るく健康で、礼儀正しい生徒の育成 2 自分で目標を定め、それに向かって専心努力する生徒の育成 3 新しい時代を主体的に切り拓く、心豊かで、逞しい生徒の育成
(2) 現状と課題	本校は基礎学力が定着していない生徒が多いことから学習意欲もそれほど高くなく、高校生活の目的意識や進路意識も低い傾向にある。したがって、普通科における特色ある教育活動の推進と進学指導体制の整備が課題である。また、食物調理科においては、取得資格を活かした進路選択ができるよう、キャリア教育の充実を図ることが課題である。
(3) 重点目標	1 魅力ある教育活動の推進(魅力ある百石高校の創造) 2 授業の充実(授業第一主義「分かって、できて、おもしろい授業」) 3 生徒指導の充実(秩序ある学校生活、安心して学べる環境作り) 4 キャリア教育・進路指導の充実(生徒全員の進路志望の実現)
(4) 結果の公表	本報告書を学校ホームページに掲載するとともに、次年度のPTA総会で保護者に公表する。

学校整理番号	28
学 校 名	青森県立百石高等学校
全日制の課程	校舎
自己評価実施日	令和 2 年 1 月 24 日(金)
学校関係者評価実施日	令和 2 年 2 月 18 日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
保護者 1 名・学校評議員 3 名 計 4 名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①学科の特色作りを促進するため、教育課程の編成に創意工夫をする。 ②食調科と地域の連携を図るとともに、食に関する知識・技術の向上を図る。 ③学校のアピールポイントを積極的に情報発信する。	①各学科の特色を生かした教育課程を編成する。 ②食育教室、高校生レストラン運営、地域行事への参加。 ③学校のホームページ、報道等へ情報発信をする。	①平成31年度入学生普通科の教育課程を変更し、生徒が選択できる科目を増や素ような編成ができた。 ②食育は、小学校、中学校各1回の実施。レストランは計8回の実施。 ③ホームページの更新や新聞・雑誌・町広報、学校新聞などを通して学校の情報が掲載されたり発信することができた。	A	・全般的によく取り組んでいる。さらに教育効果を高めるられるよう、内容を精査して実施することが大事である。 ・来年度の高校生レストランの運営に関しては、家庭クラブにおける部員確保と技術向上が課題である。 ・高校生レストランは、実施時期も地域に定着し、百石高校の特長となっているので、継続した活動を期待する。	・普通科の教育課程と総合的な探究の時間については継続的な検討が必要である。 ・来年度の高校生レストランの運営に関しては、家庭クラブにおける部員確保と技術向上が課題である。 ・外部への学校情報の提供は、迅速に効果的に発信できるようさらなる努力をしていきたい。
2	①基礎学力の向上 ②アクティブラーニング型学習の推進 ③探究型学習の充実	①生徒の学力差に対応するため教科・学年と連携し、少人数・ティームティーチング指導などの授業を行う。 ②協働的な授業でのICT機器の活用を促す。 ③地域における実態調査・報告や地域の課題等をテーマにした学習活動の実践。	①6教科でティームティーチング、習熟度またはグループによる少人数授業を実施した。 ②多くの教員がAL型授業を実施。プロジェクターやタブレットを使用しての授業が増えた。 ③総合的な探究の時間を利用し、地域課題等の学習活動を実践し、「町長とフレッシュトーク」を行い町作りへの関心を高めた。	A	・タブレットなどのICT機器を活用した学習活動は良好である。 ・「町長とフレッシュトーク」など、地域を題材にした学習の成果を発表する場があるので、今後も継続してもらい、さらに外部へ発信したらよい。	・授業研究を通して、学習意欲の低い生徒に対し、意欲的に学習に取り組めるような授業改善を研究していきたい。 ・ICT機器に関する教員の要望を聞きながら、環境整備を進めたい。 ・総合的な探究の時間を通し、地域課題等の学習活動を継続していきたい。
3	①規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着 ②生徒会活動・学校行事・部活動を通して、心身の発達 ③家庭・地域と連携を図り、生徒ここの健全な育成 ④いじめに関する未然防止対策やSNS等の利用法などの適切な指導	①登校指導、校外指導を実施し、毅然とした態度で指導を心がけ、温度差のない指導を行う。 ②生徒会活動・学校行事・部活動を通して、生徒の自主性と人権・人格を尊重し、他と協調し、思いやる心・感動する心の育成を図る。 ③家庭、中学校及び地域関係機関と連携強化し、生活指導の充実を図る。 ④いじめアンケート等の定期的な実施や携帯電話教室などを実施する。	①登校指導を11回、下校指導を5回実施した。分掌・学年の協力が不十分な場面もあったが、容儀は改善している。 ②学校行事は、生徒会を中心に委員会や部活動生徒の力を借りながら成功させることができた。 ③地区の小中学校生徒指導協議会へ出席し、情報共有できた。長期休業に向けては、諸注意を保護者宛てに配布し協力を得た。 ④いじめアンケートを、生徒に3回、保護者に1回実施した。	A	・教員の負担が一番多いところで、特に部活動に関しては学校の規模に応じた見直しが必要ではないか。また、効果を出すためにも外部指導者による指導も考えるべきである。 ・社会に出るための基礎的な部分となる指導項目、分野であるので、コミュニケーション能力などをしっかりと習得させてもらいたい。	・他分掌の教職員と協力しながら、登校指導や服装容儀指導を進めていきたい。 ・生徒数や教職員数の減少を考え、活発な部活動を維持しながらも、部数の削減や適切な予算配分に努めていきたい。 ・地域・家庭との連携はホームページだけではなく、紙面による周知・連絡の回数を増やして発信していく。 ・いじめ等のアンケートを有効に活用し、生徒の指導に生かしながら未然防止にも繋げていく。
4	①生徒一人ひとりの進路を実現するための3年間を見通した進路計画の充実を図る。 ②社会人として生活をしていくためのキャリア教育に根ざした進路指導の実現を図る。 ③保護者の意識向上を図り、生徒が進路目標を設定できるような情報提供に努める。	①各学年と連携を図り、進路に関する研修会や学校説明会への参加を促す。 ②上級学校や企業等との連携を通して、勤労観・職業観の育成、上級学校進学に必要な学力の育成、おいらせ町の経済的支援の有効活用。 ③進路ガイダンスの実施、各種進路に関する説明会への参加を促す。	①進路指導年間計画を作成し、進路会議・打ち合わせ等を行うことで教員の共通認識・情報の共有を図った。 ②「企業見学」「インターンシップ」「大学等見学会」の実施。 ③町会・経済的支援を活用し、教科主導で各種検定・講習会を実施した。 ④生徒と保護者を対象に「進路ガイダンス」を実施した。生徒向けには「3年地元企業求人説明会」・「2年企業大学等見学会」等を実施した。	B	・これから高齢者が増えていく中で、福祉に関する学習機会があると良い。 ・町の助成等を活用しながら、部活動、学習指導、進路指導が魅力のあるものとなるような校風作りを、引き続き行って欲しい。	・見学等を中心とした体験型活動が多いので、考察や検証を取り入れて生徒が探究できる内容としていきたい。 ・町の助成を活用しながら、より効果的に生徒の希望進路実現ができるように指導を工夫していきたい。 ・進路通信を作成し、効果的な情報提供をしていきたい。

(11) 総括	難関大学講習(3学年)や進路研究会(2学年)を実施し、進学者の意識を高めることはできた。ポートフォリオの導入を検討しつつ、正確な情報の収集及び適切な指導方法の研究をしていきたい。高校生レストランは好評の中、予定通り8回実施(春と秋は生徒会館)、来年度も運営面で効率化を図りながら実施したい。生徒会活動・学校行事・部活動において十分な活動実績や成果を上げることができたが、落ち着いたない生徒が散見される。保護者への情報発信については、学校通信「銀杏の森」や学校ホームページを活用したが、来年度は掲載内容をさらに充実させたい。
---------	---